

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(事前評価)

課題名「建築プロジェクトの円滑な推進のためのブリーフィングに関する研究」

1. 主な所見

- ・所見 : ブリーフィングのわが国での建築プロジェクトへの不十分な適用を考えると、この課題は研究から一歩進んだ実施可能な成果を目標にさせていただきたく思います。ブリーフィングの実施、普及については、公共プロジェクトへの適用が急がれるので、国交省、自治体での成果の活用等、目標とする成果の期待は大きく、本研究はきわめて意義深い研究と評価できますが、大きな広がりを持つ課題だけに、実効性のある成果が得られるような研究の絞り方、体制の計画強化をぜひ考えて下さい。
- ・所見 : ブリーフィング手法開発上の具体的課題の設定について、いま少し技術的な目標設定を明確にすべきと考えます。具体的な対象を公共プロジェクトとリニューアルプロジェクトに絞っている点は良いと思いますが、もう少し範囲を特定した具体的成果を想定した方がよいと思われる。ポイントを絞り、分かりやすい成果を出していただきたいと思います。単なる実情把握ではなく、アクションにつながる成果を期待します。研究費及びマンパワーが限られているので、ポイントの絞り方が重要になると思われます。
- ・所見 : 成果物としてはマニュアル的なものを作ることになるでしょうが、どのようなプロジェクトを対象とするかは十分に検討する必要があります。中小規模の公共工事の場合には、類似の建築物を大量に発注するので、標準化が有効と考えられます。研究方法としては、ケーススタディが中心となるでしょうが、データの取得等、研究の進め方に工夫が必要と思われる。

2. 主な所見に対する回答

- ・所見 に対する回答 :  
これまでに公共発注の建築プロジェクトを対象として、評価グリッド法を用いた施設利用者(ワーカー)のニーズ把握手法の開発を国土交通省官庁営繕部と共に行ってきました。平成17年度より、この手法を営繕事業において試行運用する予定であり、本研究では、この試行運用での適用結果をフィードバックし、公共プロジェクトでの実用化に向けた手法開発を進めていくことを考えております。官庁営繕部においても実用化に向けた検討が進められており、より密に連携をとりながら、具体プロジェクトの試行運用を通じて、実効性のある成果を目指していく所存です。
- ・所見 及び に対する回答 :  
本研究では、公共発注の建築プロジェクトの中でも、これまで十分にブリーフィングが行われておらず、かつ標準化による効果が大きいと考えられる中小規模のプロジェクトを主要対象とし、実用化に向けた検討を進めていきたいと考えております。その際、これまで開発したニーズ把握手法の適用に関する適正規模の検討とあわせて対象の選定、絞り込みを実施したいと考えております。  
対象をある程度限定することで、実用化に向けてより実効性のある手法開発が可能になると考えております。所見 に対する回答にも述べましたように、官庁営繕部とは引き続き具体プロジェクトでの連携を通じて、データ収集等、研究開発の円滑な推進のための体制を整えて実施して行く予定です。